

## 4 伊庭八郎宿泊の地

中央区谷町9(大仙寺)

- ▶ 幕臣 伊庭八郎が元治元年(1864)5月に京都から大坂に到着しました。将軍 徳川家茂の警護として付き従うためです。八郎は上洛時の記録として「御上洛御共之節旅中并在京在坂中萬事覚留帳」という日記を残します。八郎の死後「征西日記」と改題されました。その日記によりますと、元治元年5月7日昼に大坂京橋口に到着。将軍家茂はそのまま大坂城に入城。八郎は谷町の大仙寺が旅宿であったとされています。5月7日から6月5日まで大坂にいました。その間、大坂見物、奈良見物を行い、日記に書き残しています。この滞在期間中、大坂では5月20日に大坂西町奉行所与力の内山彦次郎が何者かに暗殺される事件がおこり、出発の6月5日は池田屋事件が京都で起こっています。



伊庭八郎



### <伊庭八郎>

伊庭八郎は弘化元年(1844)、講武所剣術師範伊庭軍兵衛の長男として生まれます。八郎は文武共に優れ、「伊庭の小天狗」と称されていました。慶応2年(1866)新設の遊撃隊に参加。慶応4年、鳥羽伏見の戦いが始まり、遊撃隊員として従軍します。4月11日、江戸開城と共に八郎ら遊撃隊士36人は脱走します。請西(じょうさい)藩士約70名と共に新生遊撃隊を結成し、新政府軍と対峙しました。敗戦を繰り返し、五稜郭にたどり着きます。五稜郭で作られた蝦夷共和国の歩兵頭並に就きます。明治2年、新政府軍の攻撃により重傷を負います。新選組隊士 田村銀之助が伝えた内容によりますと、八郎は病床の中、モルヒネを飲み静かに息を引き取ったそうです。遺体は土方歳三の側に埋められたと語っています。

### <脱藩した大名 請西(ジョウサイ)藩主 林 忠崇>

慶応3年(1867)、京都で伏見奉行の職にあった林 忠交(ただかた)が病死し、19歳の忠崇(ただたか)が藩主となりました。直後、戊辰戦争がおこり、忠崇は旧幕府遊撃隊の伊庭八郎・人見勝太郎の両名と手を結びます。そして慶応4年(1868)閏4月3日、徳川家再興を掲げ自ら脱藩。藩兵70名と遊撃隊36名を率い、総督として官軍に立ち向かいました。箱根・奥州と転戦したが9月20日ついに仙台で降伏。全国でただひとつ請西藩は取り潰しとなりました。10月に東京へ護送された忠崇は肥前国唐津藩主・小笠原長国邸に預けられ禁固の身となります。明治5年禁固を解かれ、請西に戻って帰農。明治27年に華族の礼遇を受け、昭和16年93歳にて永眠。



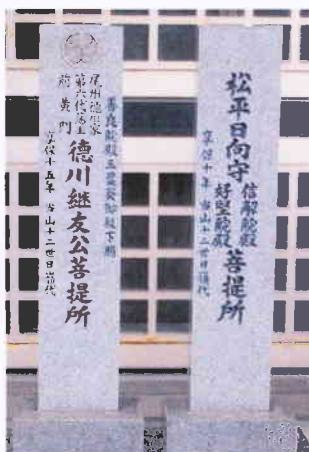
脱藩大名 請西藩主 林 忠崇



## 徳川継友菩提所

中央区谷町8(本長寺)

- ▶ 尾張藩第6代藩主である徳川継友の菩提所が本長寺にあります。5代藩主徳川五郎太は幼君でありながら家督を継いだのですが、わずか2ヶ月で死去します。分家の徳川通顕(みちあき)が尾張藩第6代藩主として家督を継ぐことになりました。第7代将軍徳川家継の一字をもらい徳川継友と改名します。紀州藩主徳川吉宗と次期将軍の座を争いましたが、敗れてしまいます。享保15年(1730)、39歳で亡くなり、第7代藩主に徳川宗春が就きます。宗春が将軍吉宗の儉約政策に反発し、積極財政政策を取ったことは有名です。



## 堀部 弥兵衛・安兵衛 墓

中央区中寺1-36(福泉寺)

- ▶ 赤穂義士47士のうち、父子であだ討ちに参加した堀部弥兵衛(父)と安兵衛(子)の墓が福泉寺にあります。墓はここだけでなく、全国に数箇所あります。



次回もご期待ください